

# 『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

## 同 事

平成28年6月第4週放送

道元禅師が著された『正法眼蔵(しょうぼうげんそう)』「菩提薩埵四摂法」の巻に示されている、四つある菩薩の願いによる行い、仏教徒としての人のために見返りを求めない修行。その行いの第四番目が「同事」です。

“同”じ“事”と書きますが、ここでは「事を同じくする」という意味を表しています。相手と同じ目の高さに自分を置いて気持ちを通わせる、心を寄り添うということです。これはいわゆる世間で言う所の上から目線ではなく、かといって見返りを求め、下から上目使いで媚び諂う態度でもないのです。

それは、自分自身の心の中にしっかりとした柱を持っていなければならないという事を示していて、これはとても大切ではありますが、守るのが難しい心の姿勢でもあります。人間は、ほかを意識し刺激を受けることで、自己の内面を磨き成長するものですが、それは取りも直さず、ほかからの影響を受け易いということでもあります。

あの人がやっているから私もやってみよう、でも別の人にはどう思われるか気になるのでやっぱりやめようというようなことは良くあるでしょう。

しかし大切なのは、自分自身の心の奥底から自然に湧き上がって来る気持ちに動かされた行い、慈しみの言葉、人の力になりたいという願い、そして心を寄り添いたいという率直な気持ちではないでしょうか。

四月には九州地方で大きな地震がありました。その時に、五年前の東日本の震災を思い出すとともに、食べ物や飲み水を届けてあげたい、救い助け出す力になりたい、そばにいてあげたい、何かしなければという気持ち、それは親しい方やお知り合いの方がいらっしゃればもちろんのこと、そうでなくとも、自分の心の底から自然と湧き上がってくる気持ちを意識された方は少なくなかった筈です。

それが、仏教で説くところの、慈悲心に突き動かされた菩薩の願いによる行い、すなわち「同事」であるといえるでしょう。

人それぞれといいながら、個人個人を尊重するあまりに心の垣根を作ってしまうがちな昨今ですが、今こそ、仏教徒として一人ひとりの悲しみや苦しみを受け止め合って、ともに願い、ともに寄り添い、ともに歩み支え合う生き方を心掛け、実践していきたいものです。

— 終 —